
呪魔賜る王女その騎士と共に

くるくる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

呪魔賜る王女その騎士と共に

【Nコード】

N7270Y

【作者名】

くるくる

【あらすじ】

剣と魔法の物語です。

序

長い詠唱が終盤に差し掛かると、その頃には辺り一面が闇に覆われていた。日が沈むにはまだ早い。穏やかだった空は、今は分厚い黒雲に覆い尽くされて、まるで夜のように太陽の光を遮っていた。空気が帯電し異様な臭気を放つ。

「イフリン殿、準備は宜しいか？そろそろですぞ。」きらびやかな馬上鎧に身を包んだ経験豊富な騎士は、こちらを心配するかのような口調で声を掛けてきた。何でそんな口調で？と、自分も多少は戦慣れしていると自負しているつもりだったので、騎士の態度に少し腹を立てたが、思い直して声を荒げる事も無く大丈夫だと返事をした。解るのだ。その心配げな口調は自分に向けられたものであると同時に騎士自身にも向けられたものであると。周りには、騎士と同じ様にきらびやかな格好の騎士達が、落ち着けずそわそわとした様子で自分達の出番を待ち構えている。

隊列の中央、その幕に覆われた円陣の中では、あの女達が最後の呪いの言葉を吐き出そうとしていた。あの女達。アルカドの2人の王女。この姉妹は、一年の大半を雪と氷に覆い尽くされるあの山脈の奥の神殿でどのような忌まわしい古代の知識と共に生まれ成長してきたのである？普段は愛らしい姿形の幼い姉妹だが、彼女たちが今行っている呪術を目の当たりにすると、その姉妹が「呪われた忌むべき存在」である事を思い出すのに十分だった。詠唱を行う際は、姉妹は巫女達に円陣に囲まれ横断幕で覆われその姿は見えない。その側に近づいてやっとな、古代語による詠唱がわずかに漏れ聞こえてくるのみだ。彼女たちは普段から生肉を喰らい生き血を飲んでその力を蓄えるという。戦いに倒れた者からの血や死臭以上の臭気が、今あの女達が呪いの言葉を積み重ね詠唱している円陣から周辺に広がっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7270y/>

呪魔賜る王女その騎士と共に

2011年11月21日21時40分発行